

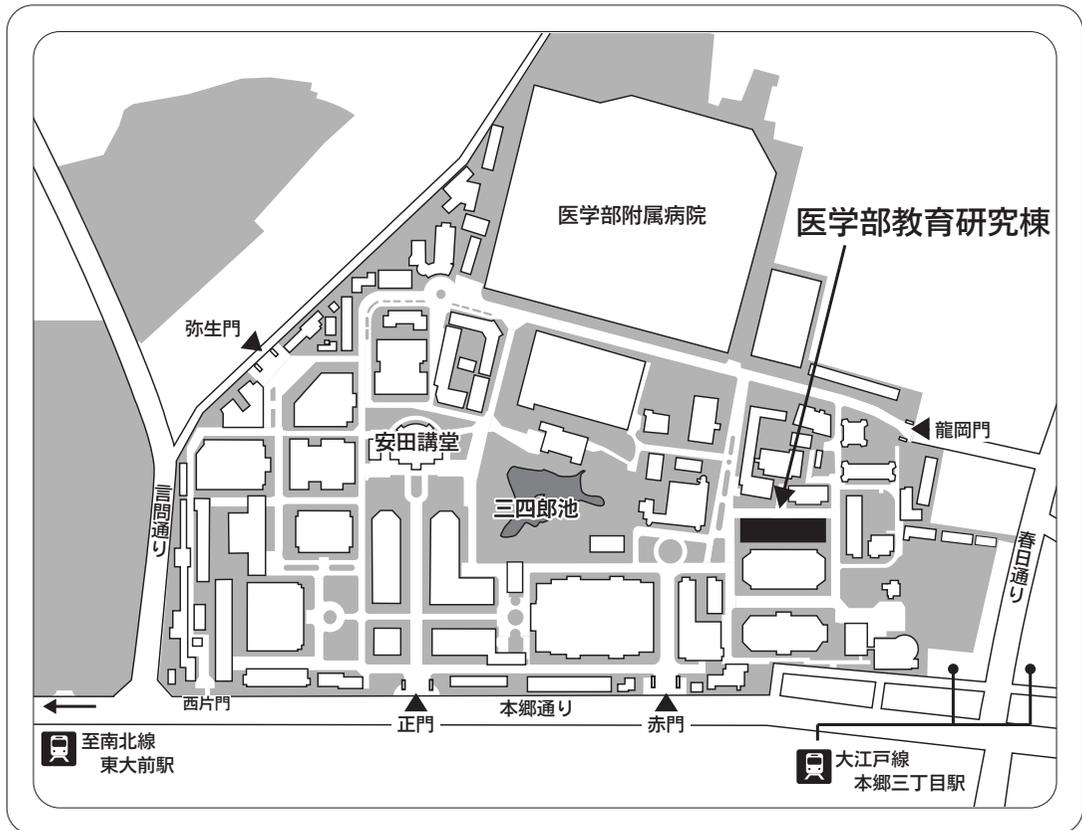
第 556 回

日本小児科学会東京都地方会講話会

プログラム

日 時 平成 20 年 5 月 10 日 (土) 午後 2 時 00 分

場 所 東京大学鉄門記念講堂(医学部教育研究棟14階)



演題の申し込みについて

1. 講話会の当日、文書で提出、もしくは e-mail で事務局宛送ってください。
2. 抄録 (160字以内) をおつけください。
3. 原則として指定発言をつけてください。
4. 演者、指定発言者は、当日二次抄録 (200字以内) を提出してください。(日本小児科学会誌掲載の為)

世話人

プログラム係 舟塚 真
東京女子医科大学 小児科 03 (3353) 8 1 1 1
FAX 03 (5269) 7 3 3 8

会場係

岡 明
東京大学小児科 03 (3815) 5 4 1 1 内線 3 3 4 5 3
直通 (FAX) 03 (3816) 4 1 0 8

事務局

03 (5388) 7 0 0 7
e-mail: jps-tokyo@umin.ac.jp

第 556 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1 題 6 分, 指定発言 5 分, 追加討論 3 分以内, 厳守のこと。○印演者)

第 1 グループ 14:00—14:40

座長 坂内 優子 (東京女子医科大学小児科)

1) 身近な臨床場면을題材とする医療倫理教育の試み

○関口進一郎, 高橋 孝雄 (慶應義塾大学小児科)

医療倫理を近づきたいテーマと認識し, 日頃は発言を控えている若手医師も, 倫理的なディレンマに直面することは免れない。当科では「亡くなった児を前に気管内挿管教育が行われる」場面を想定し, 倫理に関する討論を試みた。活発な討論を引き出す条件は, 1) 身近なケースの選択, 2) 唯一の正解を求めない姿勢, 3) 論点の明確な提示である。

2) 低亜鉛母乳による亜鉛欠乏症の 1 乳児例

○奥村さやか, 榊原 裕史, 小鍛治雅之, 寺川 敏郎, 横路征太郎 (東京都立府中病院小児科)
宮田 章子, 小口 薫 (みやた小児科)

6 カ月女児。生後 5 カ月後から発疹が出現し緩解再熱を繰り返した。その後下痢も出現し哺乳不良となり当院紹介入院。入院時ほぼ全身に膿痂疹様病変を認めた。入院時の患児の血清亜鉛値と母乳の亜鉛値が低く, 低亜鉛母乳による亜鉛欠乏症と診断した。亜鉛投与後皮膚所見は速やかに改善し再発を認めていない。若干の考察を加え報告する。

指定発言 岩田 力 (東京家政大学家政学部児童学科)

3) 突然の呼吸困難で発症し, 粘液栓の喀出とともに呼吸状態の著明な改善を認めた plastic bronchitis の 1 例

○三戸 直美, 大原佳央里, 有瀧健太郎, 高山ジョーニ一郎 (国立成育医療センター総合診療部)
上村 克徳 (同 救急診療科)
菊地信太郎, 樋口 昌孝, 川崎 一輝 (同 呼吸器科)

症例は 3 歳 0 カ月男児。突然の呼吸困難にて当院受診。病歴, 症状, 胸部レントゲンより気道異物あるいは鑄型気管支炎を疑い, 全麻下での気管支鏡検査を準備中に, 気管支鑄型状の粘液栓を喀出, 呼吸状態の著明な改善を認め, 鑄型気管支炎と診断した。鑄型気管支炎は早期の病態把握が予後を大きく左右する疾患であり, 文献的考察を含め報告する。

指定発言 川崎 一輝 (国立成育医療センター呼吸器科)

第 2 グループ 14:40—15:10

座長 清谷知賀子 (国立成育医療センター血液腫瘍科)

4) 好中球過分葉にて発見された広範囲腸切除後のビタミン B12 欠乏性巨赤芽球性貧血の 1 例

○高木 永, 弦間 友紀, 吉野 浩, 別所 文雄 (杏林大学小児科)
宮地 幸 (東京都立多摩療育園)

症例は 5 歳女児。既往歴として回腸閉鎖による胎便性腹膜炎との診断で 5 回の手術歴あり。他院での血液検査にて好中球過分葉を指摘され当院紹介受診。好中球過分葉, 大球性貧血, 葉酸値正常, ビタミン B12 低値より, 広範囲腸切除後の吸収障害によるビタミン B12 欠乏性巨赤芽球性貧血と診断した。末梢血を観察することの大切さを含め報告する。

5) 発熱と頑固な便秘を主訴に発見された神経芽細胞腫の男児例

○山岡 正慶, 横川 裕一, 横井健太郎,
湯坐 有希, 秋山 政晴, 衛藤 義勝 (東京慈恵会医科大学付属病院小児科)
益子由梨佳, 臼井 信男 (東京慈恵会医科大学青戸病院小児科)

症例は便秘と熱発を主訴に近医より紹介となった3歳男児。右副腎原発の分化傾向を伴う神経芽細胞腫 (stage4) と診断され、現在、化学療法中である。本症例は当初、腹痛と便秘が続いていたが、原発巣切除後には症状は消失した。神経芽細胞腫に消化器症状を合併するという報告があり、本症例でもその関連について考察し報告する。

6) 若年性特発性関節炎として治療されていた進行神経芽腫の1例

○堀江 豪, 康 勝好, 自見 英子, 古屋 彩夏, 滝田 順子,
井田 孔明, 狩野 博嗣, 高見沢 勝, 五十嵐 隆 (東京大学小児科)

2歳男児。2週間の発熱と下肢痛に対し、前医にて若年性特発性関節炎を疑われた。イブプロフェンを投与されていたが、症状の改善がないため当科を受診した。不明熱として精査をおこない、腹部CTにて腫瘍を認めた。リンパ節生検、骨、骨髄転移所見から神経芽腫 stage4 と診断し治療を開始した。教訓的な症例と考えられたため報告する。

休 憩 15:10—15:20

感染症だより 15:20—15:30

座長 山本 光興 (山本小児科)

講師の先生は未定です。決まり次第、地方会ホームページ・当日会場にてお知らせいたします。

(国立感染症研究所感染症情報センター)

教育講演 15:30—16:00

座長 内山 浩志 (うちやまこどもクリニック)

子どもの病気の初期印象による診断能力を磨く

横田俊一郎 (横田小児科医院)

私が小児科研修医を始めた頃、入院カルテの個々の身体所見は記入できても、General condition, Appearanceの項にどのように記入してよいか悩んだものである。小児科医として外来で多くの患者を診るうちに、誰でもこの項目の重要性に気付いてゆくが、初期印象による診断能力を高めるためのコツについて解説してみたい。

第3グループ 16:00—16:30

座長 勝盛 宏（東京臨海病院小児科）

7) ガス湯沸かし器使用による一酸化炭素中毒の母子例

○早乙女壮彦, 三井 一賢, 小嶋 靖子, 佐藤 真理,
松裏 裕行, 小原 明, 佐地 勉 (東邦大学医療センター大森病院小児科)
山本 慶郎, 坪田 貴也 (同 救命センター)

8歳男児と7歳女児。ガス湯沸かし器使用後に突然、母、兄、妹が頭痛、全身倦怠感を訴え、立体困難になり救急搬送された。顔面紅潮を認め、HbCOは母29.4%、兄17.7%、妹14.5%を呈し急性一酸化炭素中毒と診断した。酸素投与、輸液により改善した。一酸化炭素中毒は、近年練炭自殺に次いで、ガス器具の不備によるものが散見される。診断は容易であるが、迅速で適切な治療が重要である。

8) 出生時巨脳症、表皮母斑を認め、生後1カ月に髄芽腫を発症した1例

○浅越 由香, 吉川 尚美, 菅沼 広樹, 鈴木 光幸, 李 翼,
久田 研, 東海林宏道, 奥村 彰久, 清水 俊明 (順天堂大学小児科思春期科)

日齢0の男児。胎児期より巨脳症および小脳低形成が疑われた。左側頸部と腰部に表皮母斑があり、MRIで皮質形成異常および左前頭葉皮質に石灰化像を認めた。日齢51のMRI上小脳虫部付近に腫瘍性病変があり、外科的切除を行うも全身状態が悪化し死亡した。病理組織学的には髄芽腫であった。児の経過について文献的考察を加え報告する。

9) 周産期仮死に伴う遅発性ジストニアの1例

○深堀 俊彦, 舟塚 真, 伊藤 康, 石垣 景子,
清水 玲子, 小国 弘量, 大澤真木子 (東京女子医科大学小児科)

症例は14歳3カ月の男児。出生時に仮死があったが、右下肢軽度痙性のみで、知的障害は認めなかった。13歳時、左上肢のミオクローヌスにて発症。次第に同部位のジストニアが目立ってきた。近医にて諸検査が施行されるも異常所見がなく、心因性を疑われ抗精神薬が処方された。臨床症状より上記と診断、抗コリン剤にて症状は軽快した。

Presentation について

発表は Computer Presentation (Windows) のみで受け付けます。Powerpoint 2000 以上で作成、Font 文字は Powerpoint 備え付けのみ。CD-R もしくは USB メモリーにて、第1、2グループ発表者は午後1時30分までに、第3グループ以降の発表者は午後3時までにスライド受付まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルス check をお願いいたします。

※ Vista には未対応です。

〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設します。利用ご希望の方は、利用日の1週間前までに事務局へお申し込み下さい。申し込みの際、お預けになるお子様の氏名・年齢・性別・及び預けられる時間帯を伺います。利用当日、お子様が好きな食べもの・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。また申し込み受付後、問診票に記載していただきますことをご了承下さい。キャンセルされる場合は、3日前までにご連絡をお願いします。なお費用は学会が負担いたします。

日本小児科学会東京都地方会事務局 TEL 03-5388-7007/FAX 03-5388-5193

運営委員会だより

1. 3月の講話会参加者196名、新入会8名（会員数1,792名）。
2. 東京都地方会は2008年5月から東京大学へ移り、会場は赤門近くの新研究棟14階です。また、日程は第二土曜日（6と7月は第一土曜日）の開催となります。
3. 今後の教育講演は「小児科診断のupdate」をテーマとし、講演時間枠を40-45分に拡大することで検討中です。

平成20年総会だより

平成20年3月8日東京都地方会総会が開催されました。

1. 任期満了にともない役員・運営委員が承認されました。

次の方々が承認されました。（任期：平成20年4月から2年間）

会 長	五十嵐 隆		
副会長	大 学 高橋 孝雄		
	病 院 伊東 三吾		
	診 療 所 泉田 直己		
監 事	麦島 秀雄	吉川 弘二	
運営委員	大 学 岡 明	清水 俊明	前田 美穂
	病 院 小澤 美和	川崎 一輝	
	診 療 所 内山 浩志	佐々木伸彦	
	小児保健 正木 拓朗		

（敬称略）

2. 平成19年度庶務報告・決算報告・監査報告が承認されました。
3. 平成20年度事業計画・予算計画が承認されました。
4. 平成20年度名誉会員に山本光興先生が承認されました。
5. 事務局委託・受託契約が承認されました。

【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- ・ 自宅、勤務先の住所（プログラム送付先）等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。登録事項変更届出用紙をご送付いたします。
- ・ 退会される場合も必ずご連絡ください。そのお届けがない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。

東京都地方会事務局 TEL：03（5388）7007/FAX：03（5388）5193

地方会ホームページのお知らせ

更新しております。是非アクセスしてみてください。

URL：<http://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/>

演者の先生方へのお願い

一次抄録は160字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の200字以内を厳守くださるようお願いいたします。（原稿は活字もしくはワープロ文字で）

出席した会員に発表の意味をより強く、明確に伝えるために、最後（または適切な時期に）Take Home Message（この発表から学ぶこと）を手短かな一文で記したスライドを付け加えて頂くようお願いいたします。

WAKODO

アクアライト ORS

Oral Rehydration Solution
乳幼児用イオン飲料

乳幼児の電解質・水分補給を新提案！

水分・電解質の吸収率を高めるため、浸透圧を200mOsm/Lと低くしています。

酸味を抑え、乳幼児が飲みやすいりんご風味です。

人工甘味料・保存料等は一切使用しておりません。



125mL×3個パック

乳幼児にとって理想的なバランスで電解質を補うことができます。125mLの飲み切りサイズです。

	浸透圧 mOsm/L	電解質mEq/L			pH
		Na ⁺	K ⁺	Cl ⁻	
アクアライト ORS	200	35	20	30	5.5
※スポーツドリンク	300~350	10~21	5~7	5~17	3.5~4.2
果汁(100%)	500~900	~2	10~50	~1	3.5~4.0
※ベビー用野菜スープ	160~360	30~70	7~31	20~80	—

※市販品を当社にて調査

和光堂株式会社 お客様相談室フリーダイヤル 0120-88-9283

●インターネットで和光堂情報を提供しています。http://www.wakodo.co.jp

06.01